

令和 5 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

- ア 知性を高め、豊かな創造力を養う
- イ 健康で自律の精神に満ちた人間性を培う
- ウ 誠実で実践力のある人間形成をめざす

2 学校の特徴

- ア 生徒数70名程度の小規模校

本校は、昭和25年に福野高等学校平分校として設立され、令和2年に創立70周年を迎えた。各学年普通科1学級、全校生徒70名程度の小規模校であり、「少人数で授業を実施できる」「一人一人に目がゆきとどく」など小規模校ならではの利点がある。

- イ 一人一人が担う大きな役割

学校行事や生徒会活動では、生徒一人一人がそれぞれの役割を担いながら、全員が一致協力して仕事にあたるという体験を通して、大きな成就感・達成感を味わっている。

- ウ 特色ある教育活動

本校は豊かな自然に囲まれ、世界文化遺産地区に隣接している。五箇山地域は多くの文化・郷土芸能が伝承されており、ふるさと教育を推進していくための環境が整っている。毎年5月には、小中高合同運動会を開催している。小中高合同で行う競技や地域の方々・保護者も参加する合同演技（こきりこ唄）があり、地域の大きな行事の一つとなっている。また、台湾の新北市にある中華高級中学とは学術教育交流を行っており、ふるさと教育の国際比較や成果の発信等を行う格好の機会になっている。

部活動では、郷土芸能部が、全国高等学校総合文化祭で最優秀賞・文部科学大臣賞を3度受賞するなど、入賞回数全国一を誇っている。スキー部も全国大会出場の常連であり、数々の入賞を果たしている。また、平成30年度に発足した五箇山ガイド研究会（GGS）は、近くの世界文化遺産合掌集落において本校生徒が外国人を含めた観光客に観光ガイドを行うもので、生徒の表現力・英語力を養うとともに、地元の活性化にも役立つと期待している。これらの活動は、参加した生徒に大きな達成感と自信を与えるとともに、学校の活性化に大いに寄与している。

また、令和4年度からコミュニティ・スクールとして地域学校協働活動に重点を置いた教育活動を実践している。

3 学校の現状と課題

教育活動に対する地域からの期待が大きく、また、郷土芸能をはじめとした様々な活動に地域住民が協力的である一方、生徒数減少により、これまで行ってきた本校独自の取り組みに支障が見られるようになってきている。また、地元生徒の割合も減少し、地域とのつながりが弱まっていくことが懸念される。コミュニティ・スクールの導入により、地域との連携を強め、総合的な探究の時間における五箇山地域での体験からの学びと探究的な活動により、郷土を愛する心を育てる教育活動を地域とともに推進する必要がある。

近年、生徒の学力差が大きく、わかる授業や能力差に応じた指導の工夫が必要となっている。少人数の利点を生かすとともに、1人1台タブレット端末の効果的な活用を推進していく必要がある。また、ベテラン教員の指導法を経験年数の浅い教員に伝承していくことも大切になってきている。4年制大学進学など、幅広い知識が要求されるものについては、個別指導を充実させ、早期から対策を実施して学力の向上を図りたい。

概ね、生徒は素直で前向きに学校生活・寮生活を送っており、個々に与えられた責任ある役割を全うすることで自己肯定感を高めてきているが、小規模校ゆえに、生徒間の人間関係に伴う問題も発生しかねず、様々な場面において他者を理解する能力やコミュニケーション能力の育成を図り、良好な人間関係が構築できるよう指導していく必要がある。また、本校の教育活動は、限られた小さな集団内での活動となるため、成果等を校内にとどめず、広く発信する機会を設け、生徒に自己の成長を実感させるとともに、自信を深めさせる工夫も必要である。